

～第一部～

| 出演者 | 演奏曲 | 作曲者 |
|-----------|---------------------------------------|------------------------|
| 1 中澤 忍 | 鎌倉 庭の千草 | 作者不詳 アイルランド民謡 |
| 2 有賀 猛 | アメイジンググレイス 昴 | ニュートン 谷村新司 |
| 3 栗田 勲夫 | 翼をください | 村井邦彦(ピアノ・岩澤二郎) |
| 4 片井 久夫 | 少年時代 赤とんぼ | 井上陽水 山田耕筰 |
| 5 有吉 潤子 | 河は呼んでる スワニー河 | G.ペアール フォスター |
| 6 奥津 恭子 | 高原列車は行く 夕焼けこやけ(パンフルート) | 古関裕而 草川信 |
| 7 牛山 宏隆 | 春への憧れ 春の海 | モーツァルト 宮城道雄 |
| 8 武井 洋子 | 赤い花 白い花 花のまわりで | 中村ミエ 大津三郎 |
| 9 片山 陽一 | 花の街 ピノキオへの手紙 | 團伊玖磨 M.パンツェーリ |
| 10 倉木 成伊知 | トゥヤング ルート66 | シドニー・リップマン ボブ・トゥループ |
| 11 藤好 清晴 | 愛燦燦 | 小椋佳 |
| 12 河津 菊枝 | セレナーデ シクラメンのかほり | シューベルト 小椋佳 |
| 13 竹中 速雄 | めぐり逢い(指笛&パンフルート) 釜山港へ帰れ(指笛&パンフルート) | アンドレ・ギャニオン 黄善友 |

休憩15分

表会プログラム

～第二部～

アナウンス: 齋藤 千織

| 出演者 | 演奏曲 | 作曲者 |
|-------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 14 有吉 憲行 | 乾杯の歌 乾杯の歌(椿姫より) | ドイツ民謡 ヴェルディ |
| 15 藤好 真也 | あすという日が | 八木澤教司 |
| 16 藤好 清晴 藤好 真也 | 歌の翼に(二重奏) | メンデルスゾーン |
| 17 笹原 和則 | カッコウ・ワルツ 夢路より | ヨナーソン フォスター |
| 18 村山 壮人 | 砂山 二題 ふるさとは今もかわらず | 中山晋平・山田耕筰 新沼健治 (ピアノ: 余越 真理) |
| 19 齋藤 秀元 | 野菊 影を慕いて | 下総皖一 古賀政男 |
| 20 中村 倫二 | ここに幸あり アイーダ大行進曲 | 飯田三郎 ヴェルディ |
| 21 青山 久美子 | 希望のささやき 口笛吹きと子犬 | ホーソン プライヤー |
| 22 塩谷 彰宏 | 花は咲く テキサスの黄色いバラ | 菅野よう子 アメリカ民謡 |
| 23 杉田 隆則 | カントリーロード 上を向いて歩こう | B. Danoff 中村八大 |
| 24 水沼 武彦 | フィンランディアより(聖歌309番) 鳥の歌 | シベリウス カタロニア民謡 |

田村大三「生誕100周年」に想う(目に見えない愛)

| | | |
|---------|-------------------------------------|----------------------------|
| 田村 静海 | 初恋 今の歌声「セリヴィアの理髪師」より | 石川啄木作詞 越谷達之助作曲 ロッシーニ |
| メミ・グレース | 村の娘 Stand Alone アニユス・ディ(神の子羊) | E. ラザーロ 久石 譲 G. ビゼー |



指笛音楽創始者 田村大三 生誕100周年記念

79周年
指笛音楽
研究発表会



特別出演

指笛…メミ・グレース

ドラマティックソプラノ
……田村静海

ピアノ……石塚幸子

出演者

| | | | | | |
|-------|------|------|-------|------|--------|
| 青山久美子 | 有吉潤子 | 有吉憲行 | 有賀 猛 | 牛山宏隆 | 奥津恭子 |
| 片井久夫 | 片山陽一 | 河津菊枝 | 倉木成伊知 | 栗田勲夫 | 斎藤秀元 |
| 笹原和則 | 塩谷彰宏 | 杉田隆則 | 武井洋子 | 竹中速雄 | 中澤 忍 |
| 中村倫二 | 藤好清晴 | 藤好真也 | 水沼武彦 | 村山壮人 | (50音順) |

2013年9月21日(土)

開場/12:30 開演/13:00

練馬文化センター(小ホール)

主催：指笛楽友会

～田村大三を想う～

世に生を受けわずか10才の少年田村大三に、指笛音楽と言う使命が与えられていたとは……。世に類のない指笛音楽を、世に産みだす産みの苦しみがあった事は言うまでもありません。実際には指笛を世に生かしたいがための精神力だったと思っています。“自分には指笛しかない”という言葉は何度となく聞きました。今日田村大三の姿を亡くしても指笛は残されています。本年皆様が田村大三生誕100年に思いを寄せて催される会が又新しい指笛音楽の歴史に繋れることを願ってやみません。

田村 静海

今年も生きていれば百歳を迎えていた父は何かと、「僕の目の黒い内は…」と生に対し中々の執着がある方でした。若い頃霊能者に「田村大三の家に男の子は育たない」と言われたそうで、まるでその言葉通り、2人の男の子をまだ生まれる前と、生後間もなく失くした父でした。私自身、自分に結構な男性像を見ますが、指笛奏者を継ぐという使命のために、どうしても女性に生まれる必要があったのかな?などと考えたりする昨今です。目指すは、どんな方にとっても美しいと感じて頂ける音楽に到達すること。。。今はそれだけです。

メミ・グレース